

# 保育らくおが

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本律秀 編集者 有松 徹



## Hello Summer



【写真を提供していただいた保育園】にじのはな、原中央、高取、笹丘コスモス、信和、大手門

### vol.128 令和4年度 1号

福岡市保育協会 理事長挨拶	2
福岡市私立保育士会 会長挨拶	2
ウクライナ支援寄付金贈呈	3
保育研究大会オンライン開催	3

保育をめぐる最近の課題について	4
ホイクエン@フクオカsummer fes	6
新園紹介	7
コラム	8
編集後記	8



挨拶

福岡市保育協会  
理事長 増本律秀

令和3年度においても新型コロナウイルスが猛威を振るい、特にオミクロン株が大流行した1月から3月にかけては、感染者数が過去を大きく上回り、保育現場では非常に過酷な対応を強いられました。園内で感染者が発生した場合の対応については、少しずつ緩和されておりますが、現在においても、感染者の数は高止まりしており、まだまだ予断を許さない状況が続いています。先が見通せない状況ですが、今、目の前にいる子どもたちは日々成長していきますので、引き続き感染防止対策を万全にしながら安心安全なそして質の高い保育を提供していかなければなりません。コロナ対策のための財政支援の継続と拡充については、今年度も全国組織を通じて、また福岡市当局にも働きかけていきます。さて、こども家庭庁の設置法案は、4月19日より審議が開始され6月の国会で法案が成立されました。いよいよ来年4月から運用がはじまります。厚生労働省が所轄する保育所と文部科学省が所轄する幼稚園を一体的に運用する法案は盛り込まれず、保育所、認定こども園の所轄はこども家庭庁に移り、少子化対策や子どもの貧困、虐待など幅広い分野を担当する新庁が誕生しますが、幼児教育の所轄は文部科学省に残ることとなります。

これについて岸田首相は、こども家庭庁は、強い司令塔機能を持って、子どもの政策を総合的かつ包括的に推進することができる体制

を実現していく事を強調しました。又、首相直属となるので、各省庁より一段高い立場から総合調整を行う権限が行使できるとも言及しています。いずれにせよこの新庁が、子どもにとって、又働く現場の職員にとっても環境改善となるようなものとなってほしいと思います。

少子化の加速やコロナ禍による預け控えで、2021年4月時点の待機児童は、全国で5634人となり、近年のピークだった2017年の約5分の1にまで減少し、2025年以降に利用者数が微減傾向になると試算されています。昨年度は、定員を満たさない保育施設が約4割、申込者が減少した施設は7割となっており、首都圏や政令指定都市でも需要の偏りや保育士不足で定員を満たさないところが増えています。もはや、人口減少地域だけの問題ではなくなっており、福岡市にもこの波が押し寄せてきております。令和3年度は、地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会が8回程開催されましたが、保育施設を地域を維持していく上で欠かせないインフラとして位置付けており、保育所の社会的存在価値を示しました。今後、福岡市における施設整備計画の見直しと、「利用定員の適切な見直しについて」の内閣府の指針を元に必要に応じた定員変更等の柔軟な対応を求めていきたいと思えます。

今年度も福岡市保育協会の円滑、かつ充実した運営のために皆様のご協力をお願いいたします。

挨拶

福岡市私立保育士協会  
会長 平野理江

引き続き、福岡市私立保育士協会長を務めさせていただきます。

令和4年度ですが、コロナ3年度です。少しずつですが、コロナに向き合っていく心のゆとりが生まれてきている気がします。しかし、徐々に感染拡大が緩やかになってきて、よいことではあります。予防対策に明け暮れてきた私たち、締め付けを少し解いてもいいよ、と言われ、逆にどのような緩和対応をどの程度行ったらよいか、がわからない、という状況にあります。課題をまだまだ抱えつつも、前に向かって進むことにいたしました。

さて、全国保育士会では、『子どもが豊かに育つ、より質の高い保育の実現のための取り組み』を筆頭に、した4つの柱を掲げ、重点目標を定めて取り組みを進めています。詳しくは全国保育士会のホームページをご覧ください。取り組みの一つに、保育士の仕事の魅力向上があり、昨年度「保育者による保育者のための応援ソングを作ろう」と全国に募集を行って、見事、福岡市あゆみらい保育園の村川卓先生が作詞作曲された『笑った数だけ』が優勝に輝きました。おめでとうございます、とともに、

福岡市の保育園の職員皆さんの励みとなる快挙を遂げてくださったことに感謝を申し上げます。

子どもが現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持ちましょう。今年も、自らの人間性と専門性の向上に努めるための研修会の企画と実施に取り組みます。会員の皆様お一人お一人が参加参画してこそその保育士会です。

全国保育士会の倫理綱領にもあるように、

私たちは、子どもの育ちを支えます。私たちは、子どもを育てて支えます。私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくりたいです。

今年度は、会員の皆様お一人お一人に倫理綱領携帯版をお配りしております。時には倫理綱領に目を通してながら、「手を取り合って子どもの育ちを守りたい」という先輩方の願いによって発足した保育士会の心に寄り添って、保育に向き合っていただければ幸いです。

福岡市保育協会や各園長先生のご支援をいただきながら、子どもたちの健康と育ちのためにマスクなしで互いの笑顔を見せあうことができる日が来ることを願い、頑張りましょう。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



4月11日より福岡市内各保育園にご協力依頼いたしました「ウクライナ人道危機緊急募金」は、募集期間が短く、約360万円のご協力をいただきました。ウクライナの子どものための幸せを願う市内認可保育園の思いがウクライナの子どもたちへの一助となればと思います。多大なるご協力に対し改めて御礼申し上げます。

5月10日に日本赤十字社福岡県支部にて贈呈式が行われ、福岡市保育協会より増本理事長、阿部副理事長、高田総務部長、百武事務局長が臨席し、増本理事長より後藤和孝福岡県支部事務局長に目録を手渡しました。

## ウクライナ支援寄付金贈呈（日赤）

金額：約360万円

後藤事務局長からは「一団体としては非常に大きな寄付額で大変ありがたいです。この全額を日本赤十字社よりウクライナや周辺国の赤十字社に送金します」と感謝の言葉をいただきました。募金の使い道は「紛争犠牲者に対する支援」「民間人の保護」「飲料水・食料・医薬品等の物資提供」「家屋やインフラの修復、心のケア」などに使われるそうです（活動の詳細は「赤十字国際ニュース」参照）。

赤十字社の資料によると、ロシアのウクライナ侵攻によって770万人以上が国内避難を、530万人以上が隣国のポーランド、ハンガリー、モルドバ、スロバキアなどに避難し、経済的な事情で国内に留まった方も、日々ロシアのミサイル攻撃におびえながら避難生活を送っており、その中にはたくさんの子どもたちも含まれています。大人の都合に振り回され困難に直面している子どもたちが、早く故郷に戻って未来に希望をもつて生きていけるようになるまで、保育協会としても様々な支援を考えていきたいと思っています。今後各保育園にご協力依頼をするところがあると思いますので、その時は更なるご協力をお願いいたします。

## 保育研究大会 オンライン開催

こじか保育園 嶋村尚美

令和4年2月19日、福岡市保育研究大会が初のオンラインで開催されました。私は、勤務する保育園の一室で研究大会に参加しました。例年と同じように式典から始まりました。児童憲章を読み上げ、画面上から流れる曲に合わせて「愛の地球のまんなかで」を歌いました。各区の研究発表では2年間の研究とその結果が発表され、日々、子どもたちに対し熱い思いで保育活動に従事している仲間と拍手を送りました。そして講師田澤先生の講義。遊びや生活の一場面から子どもへの育ちとは、保育者に必要なスキルとは何かを教えてくださいました。パソコン画面上ではありますが、学びの多い一日を過ごすことが出来ました。

令和元年、突如襲ってきた新型コロナウイルスの影響で、世界中で様々な活動が制限され、普段通りの生活が難しい状態になりました。日本国内では一時学校が閉鎖になりました。子どもたちの学びの場までもが活動休止するという、あつてはならない事態が起こりました。全国の保育士のための様々な研修会や研究会も軒並み中止となりました。保育士会の研究活動



は一年間の休止が余儀なくされたこともあり、毎年開催されていた保育研究大会もやむなく中止となりました。学びの機会が次々になくなる状態がいつまで続くのか先が見えない状態の中、各関係機関の皆さまは、私たち保育士の学びを止めない為、今回の研究大会オンライン開催を考えてくださいました。専門職である保育士は、子どもたちの権利を守る義務があります。そのためには常に研鑽が必要とされます。学びの機会がなくなることは、子どもの権利を守るために必要な知識を失うことだと考えます。一日も早く、集会での大会が開催されることを願うばかりですが、今回の研究大会のような、安心安全な環境下で学びの機会をもてたことを嬉しく思いました。各関係機関の皆さまに深く感謝申し上げます。

保育をめぐる最近の課題について

厚生労働副大臣 衆議院議員 古賀 篤

福岡市の保育園の先生方におかれては、2年半を超えるコロナ禍の中で、感染拡大防止対策を講じつつ、子どもたちの成長のために日々各園でご奮闘いただいておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

この度は「保育ふくおか」に寄稿させていただく機会をいただきました。せっかくの機会ですので、保育をめぐる最近の課題について、いくつかお話しさせていただきます。

1 新型コロナウイルスについて

まず、新型コロナウイルス対策についてですが、今年に入り2月にかけて、オミクロン株の感染拡大により、臨時休園を余儀なくされた園が全国的に一時急増しました。国としても、マスク・消毒液等の衛生用品や感染防止用の物品購入等の経費、その他感染防止対策を継続的に実施していくために必要な経費に対する補助金をはじめ累次の各種支援策を講じてまいりました。

現在、感染力の強い変異株BA5が主流となりつつあります。各園においては、引き続き手洗いやマスク着用など、基本的な感染防止対策を行っていたいただきながら、政府としては必要な対策、支援に取り組んでまいり所存です。

2 処遇改善について

次に、保育士等の処遇改善については、令和4年2月より収入を3%程度(月額9000円)引き上げるための措置を実施しているところです。なお、これとは別に、国家公務員給与改定に伴う令和4年度公定価格の減額分(人件費▲0.9%)についても、上乘せ補助しています。

平成25年度以降、処遇改善が図られてきましたが、職種別平均賃金をみると、全産業平均とはまだ格差があります。政府としても、「処遇改善の最終的な目標は、職種毎に仕事の内容に比して適正な水準まで賃金が引き上がり、必要な人材が確保されていること」(公的価格評価検討委員会中間整理、令和3年12月)と認識しており、更なる処遇改善に向けて取り組んでまいります。

3 待機児童対策、地域における保育所・保育士等の在り方について

3つ目に、待機児童対策については、新たに決定した「新子育て安心プラン」に基づき、令和3年度から令和6年度末までの4年間で約14万人分の保育の受け皿を整備する予定です。

大都市における待機児童問題の一方で、全国的には人口減少、児童減少の傾向にあり、地域における保育園の維持が困難

となるのが危惧されています。厚生労働省においては、こうした問題意識にたち、昨年「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会」を立ち上げ、令和3年12月20日に会としての取りまとめを行い、公表しました。具体的な取組の柱としては、

- ①人口減少地域等における保育所の在り方
②多様なニーズを抱えた保護者・子どもへの支援

- ③保育所・保育士による地域の子育て支援
④保育士の確保・資質向上等

となっております。中長期的な課題も含まれていますが、これから各施策として具体的に実行していく必要があると考えております。

4 通常国会で成立した法案について

6月15日に閉会した今年の通常国会においては、61本の政府提出法案(閣法)が成立しました。その中で、保育関係の法案としては、以下の2つであり、その概要、ポイントを記します。

今後、成立した法案に基づいて、体制整備等が行われることとなります。そして、子ども家庭庁については、来年4月予定の設置に向け、準備作業が加速化していきます。

1「児童福祉法等の一部を改正する法律」

- ①子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充
・市区町村は、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもの包括的な相談支援等を行う

子ども家庭センターの設置や、身近な子育て支援の場(保育所等)における相談機関連の整備に努める。子ども家庭センターは、支援を要する子どもや妊産婦等への支援計画(サポートプラン)を作成する。

訪問による家事支援、児童の居場所づくりの支援、親子関係の形成の支援等を行う事業をそれぞれ新設する。これらを含む家庭支援の事業について市区町村が必要に応じ利用勧奨・措置を実施する。

児童発達支援センターが地域における障害児支援の中核的役割を担うことの明確化や、障害種別にかかわらず障害児を支援できるよう児童発達支援の類型(福祉型、医療型)の一元化を行う。

子ども家庭福祉の実務者の専門性の向上 児童虐待を受けた児童の保護等の専門的な対応を要する事項について十分な知識・技術を有する者を新たに児童福祉司の任用要件に追加する。

児童をわいせつ行為から守る環境整備(性犯罪歴等の証明を求める仕組み(日本版DBS)の導入に先駆けた取組強化)等

児童にわいせつ行為を行った保育士の資格管理の厳格化を行うとともに、ベビーシッター等に対する事業停止命令等の情報の公表や共有を可能とするほか、児童福祉施設等の運営について、国が定める基準に従い、条例で基準を定めるべき事項に児童の安全の確保を加えるなど

所要の改正を行う。

II「こども家庭庁設置法等」

①内閣府の外局として、こども家庭庁を設置する

②こども家庭庁の長は、こども家庭庁長官とする

③こども家庭庁の所掌事務 ※分担管理事務(自ら実施する事務)

・小学校就学前のこどもの健やかな成長のための環境の確保及び小学校就学前のこどものある家庭における子育て支援に関する基本的な政策の企画及び立案並びに推進

・子ども・子育て支援給付その他の子ども及び子どもを養育している者に必要な支援

・こどもの保育及び養護

・こどものある家庭における子育ての支援体制の整備、地域におけるこどもの適切な遊び及び生活の場の確保

・こども、こどものある家庭及び妊産婦その他母性の福祉の増進

・こどもの保健の向上、虐待の防止

・いじめの防止等に関する相談の体制など地域における体制の整備 等

5 政府における今後の取組について

政府におけるこども政策に関する今後の取組としては、「経済財政運営と改革の基本方針2022」(令和4年6月

7日)では、以下のとおり整理されています。やや長文ですが、関係部分を抜粋します。

『少子化は予想を上回るペースで進む極めて危機的な状況にあり、児童虐待やいじめ、不登校等こどもを取り巻く状況も深刻で、待ったなしの課題である。このため、「こども家庭庁」を創設し、こども政策を推進する体制の強化を図り、常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えていく。結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会を目指し、「希望出生率1・8」の実現に向け、「少子化社会対策大綱」等に基づき、結婚・妊娠・出産、子育てのライフステージに応じた総合的な取組の推進、結婚新生活立上げ時の経済的負担の軽減や出会いの機会・場の提供など地方自治体による結婚支援の取組に対する支援、妊娠前から妊娠・出産、子育て期にわたる切れ目ない支援の充実、妊娠前から妊娠・出産、子育て期にわたる切れ目ない支援の充実、「新子育て安心プラン」の着実な実施や病児保育サービスの推進等仕事と子育ての両立支援に取り組み。

(中略)

全てのこどもに、安全・安心に成長できる環境を提供するため、教育・保育施設等において働く際に性犯罪歴等についての証明を求める仕組み(日本版DBS)の導入、予防のためのこどもの死亡検証

(CDR)の検討、未就園児等の実態把握と保育所等の空き定員の活用等による支援の推進、SNS等の活用を含めこどもの意見を政策に反映する仕組みづくり、学校給食などを通じた食育の充実、放課後児童クラブやこども食堂等様々なこどもの居場所づくり等に取り組み。

つずつ解決の向け、取り組んでいきます。そして、前記法案や政府の今後の基本方針からわかるように、こども政策はこども家庭庁の設置をはじめ、政府の重要政策となっており、また保育士等の処遇改善や職員配置の改善等の実現のためには、相応の財源を要することから、今後大きな議論となります。そうした中で、園の先生方の声をいただきながら、政策を検討していくことが極めて大事だと認識しています。

(中略)

こども政策については、こどもの視点に立つて、必要な政策を体系的に取りまとめた上で、その充実を図り、強力に進めていく。そのために必要な安定財源については、国民各層の理解を得ながら、社会全体での費用負担の在り方を含め幅広く検討を進める。その際には、こどもにも負担を先送りすることのないよう、応能負担や歳入改革を通じて十分に安定的な財源を確保しつつ、有効性や優先順位を踏まえ、速やかに必要な支援策を講じていく。安定的な財源の確保にあたっては、企業を含め社会・経済の参加者全員が連帯し、公平な立場で、広く負担していく新たな枠組みについても検討する。

※また、子ども・子育て支援の更なる「質の向上」を図るため、消費税分以外も含め、適切に財源を確保していく。」

6 終わりに

この他、保育に関しては、職員配置の改善や、保育士の確保(人材紹介業の手数料等の問題)はじめ課題山積ですが、一



最後に、幼い頃、お世話になった保育園の先生に憧れて保育士さんになられた方も多いことと思います。そうした先生方の想いが、処遇の低さや業務量の過剰な負担等が理由でしぼむことのないよう、園の現状や課題をより具体的に把握し、改善に努めてまいりたいと考えております。今後とも、宜しくお願い致します。

ホイクエン@フクオカ summer fes

信明保育園 高山拓人



6月5日(日)、アクロス福岡において今年度1回目の「ホイクエン@フクオカsummer fes」が開催されました。福岡市内の保育園を知ってもらい、保育園で働く楽しさや魅力を伝えようと、2015年より「福岡市保育園就職フェア」という名称で始まったこの企画も、途中名称を変更しながら、今年度で8年目を迎えることとなりました。

昨年・一昨年度と新型コロナウイルスの影響によりオンラインやウェブ専用ページでの開催となりましたが、福岡県の1日あたりの新規感染者も1000人前後となり、「福岡コロナ警報」も解除になったことから、3年ぶりに対面形式で開催すること

ができました。引き続き感染拡大防止の観点から、①各園の参加職員は2名まで②従来設けていたドリンクコーナーやパフォーマンスによるステージの中止を行うなどの縮小した形ではありましたが、1部・2部あわせて84カ園のみなさまに参加していただき、200名以上の方々に来場して頂きました。新型コロナウイルスの感染者も落ち着いてきているとはいえ、まだまだ自粛の影響を感じさせるなか、また当日は小雨もちらつく悪天候でしたので、たくさんの方に来場していただけるか心配していましたが、予想以上の方々に来場していただくことができました。初めて「就職フェア」を開催してからの8年間で、養成校(の学生)を中心にこのイベントが浸透し、保育園への就職を考えるならまずsummer fesに参加するという認識をもつてくださる養成校の先生方が増えたのではないかと感じています。現在保育園で勤務されている職員の方の中にも、summer fesで園と出会った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

参加して頂いた園のみなさまには、ポートフォリオを用いた写真やタブレット等を活用した動画での説

明など、様々な工夫をして普段の保育の様子や園の雰囲気を知りやすく説明していただきました。来場者の皆様も各園の熱のこもった説明を、緊張の中間いている様子が印象的でした。話を聞いていただいた方の反応をダイレクトに感じる事ができるのは、オンライン開催にはない対面開催のメリットといえるのではないのでしょうか。また、対面開催のほうが1度に説明を行う対象の人数が少ないため、参加者もより質問等の発言がしやすく、相互理解が深まったのではないかと思います。

自園でもありがたいことに、毎年summer fesに参加させていただいています。年々ブースに来場して下さる方も増え、園の雰囲気や特徴を知っていただく大変貴重な経験をさせていただき、保育園の魅力をわかりやすく伝えようと試行錯誤しながら準備をしています。もちろん当日参加して下さる方のために準備しているのですが、同時に自園の日常を振り返るきっかけとなつていきます。「残業はどれくらいあるのか」「持ち帰りの仕事はあるのか」「人間関係・園の雰囲気はどうなのか」など予想される質問に対して回答を準備することで、普段の園の雰囲気を改めて考え、業務改善につながったり、園としての新たなアピールポイント

を発見したりすることもあります。そういった意味でも、summer fesが園としての貴重なイベントのひとつになっていきます。

さて、来る8月28日(日)には、今年度2回目の「ホイクエン@フクオカsummer fes」の開催が予定されています。今年度1回目は久しぶりの開催ということで、運営面での改善点が多く見つけられました。8月はより内容を充実させ、養成校への周知活動も強化し、ひとりでも多くの保育士が福岡市に誕生するきっかけとなるイベントにしていきたいと思えます。

「ホイクエン@フクオカsummer fes」が今後ますます活性化し、ひとりでも多くの方に保育園の魅力・保育士の魅力を感じていただくためには、市内291カ園の皆様のお力添えが必要です。引き続きご理解・ご協力いただき、盛り立てていただきますようお願いいたします。



# NEW!! 新園紹介

## まごとながすみ保育園 (南区)

園長 吉岡 大作

定員 60名

令和3年10月、南区に開園したまごとながすみ保育園です。園舎は屋上が3階の3階建てで、閑静な住宅街にあります。屋上からの景色はすがすがしく、子どもたちがのびのびと身体を動かしたり、違う雰囲気での給食を時折楽しんだりしています。また、響き渡る子どもたちの声に「元気が出る」「地域の活性化になる」等、地域の方々から温かく見守ってもらい、地域も言わせても中心とした園づくりを進めています。「子どもの心と身体を守り、育む」という基本的なことを「コンセプト」として、保育の「あたりまえ」を見直し、「子どもの未来にとって大切なことを日々学び合い、保育者も生き生きと過ごせるような園づくりをしています」。



## 大橋コスモス保育園 (南区)

園長 小西 亮

定員 75名

南区の塩原に令和4年4月に開園いたしました。保育士の優しい見守りと言葉かけにより、安心して生活し、遊びに取り組みめるような温かみのある雰囲気の実践しております。

それぞれの子もたちが「自分のペースで、自分自身の能力を高めていくこと」を保育理念とし、子どもたち一人ひとりの心が満たされるように、「笑顔で寄り添い、認める、喜ぶ」ということを忘れずに、職員全員が子どもたちに関わっています。安心安全な「空間」ゆたかな「時間」信頼できる「仲間」の3つの「間」を確保し、いつまでも遊んでいたいと思える保育園を目指しています。



## 中尾ガーデン保育園 (南区)

園長 後藤 佳子

定員 90名

令和3年10月1日に開園しました、学校法人光寿学園中尾ガーデン保育園です。保育理念「ともに生き、ともに育ちあう」大人が笑い合う子どもたちも笑顔になると思い、日々の挨拶を大切にしています。そして、一人一人の子もたちが、「愛されている」と実感できるように個性を大切に、変化に気づき寄り添えるように職員同士協力し合いながら、子どもたちとともに体験し学び楽しんでいます。園庭では、野菜や花を栽培して泥んこ遊びやボール、虫探しなど子どもたちが考えて遊びを展開しています。近隣の方々からも愛される園に育つように努力してまいります。これからどうぞよろしくお願いたします。



## 野芥ガーデン保育園 (早良区)

園長 山村 由比

定員 50名

令和4年4月1日、早良区野芥1丁目に新規開園いたしました。七隈線野芥駅より徒歩1分の好立地でありながらも静かな住環境に恵まれております。福岡市内においては法人の8園目の保育園です。法人共通の方針としては、園は子どもたちにとって初めて出会う学校と位置づけ、私たちは子どもたちにとって初めての先生であることに誇りと責任を持ちます。そして、子どもたちがいつか私たちの手を離れるときには幸せな子ども時代思い出を両手に抱えられないくらい持たせて送りだしたいと思えます。子どもたちの笑顔を守ることに健全な心身の育成を目指しております。



## いちざきみんなの家 (南区)

園長 石井 誠

定員 90名

いちざきみんなの家は、社会福祉法人つばき福祉会が運営する認可保育園で、令和4年2月に南区市崎に開園いたしました。私たちがいちざきみんなの家の保育は、子どもたちの「知りたい」「やってみよう」という思いに寄り添い、その時の「ウキウキ」「ワクワク」「ドキドキ」といった気持ちを大切に、子どもと大人が一緒に楽しく、子どもと大人の対話や体験をするなかで、成功や失敗を繰り返しながら子どもたちの「生きる力」を育んでいきます。



## 照葉けいあい保育園 (東区)

園長 三塩 知子

定員 130名

4月、協会の仲間入りをした照葉けいあい保育園といたします。新しい土地で新しく開園をし、新しい子どもたちと、新しい職員と、この置かれた場所どう花を咲かせていけばいいかな...と。子どもたちの力を借りながら職員と一っしょに楽しいこと、嬉しいこと、面白いこと、悔しいこと、頑張りたいこと、なごなご力を合わせて園を支えていけるように、と思っております。

お世話になることが多いと思います。また、ご協力もお願いいたします。



# コラム 私の保育の原点

元岡きらきら保育園  
園長 高木 禎晋



子どもの育ちにとって環境が大切だということは保育者にとっては言うまでもなくあったところでしょ。保育に携わっている方々は、常に子ども達のための環境ということを意識しながら保育を行っているのではないかと思います。

当然のことながら、子どもにとって家庭環境はより一層大きな影響を及ぼします。どのような親のもとに生まれ、どのような家庭で育つのか、生まれるところを選べない子どもにとってはその時点ですでに大きなハンディを背負って生きていかなければならないという場合もあります。

その現実を突きつけられる出来事が今でも鮮明に私の記憶に残っています。そして、それが私の保育の原点となっています。

私が通っていた中学校は、少々元気が過ぎる？好奇心旺盛な生徒？が多い中学校で、そこで仲良くなった彼もヤンチャな部類に入る子でした。笑いのツボが合ったのか自然と仲良くなり、一緒に過ごす時間が多くなっていました。

時に私の家で遊ぶこともありましたが、彼の家に誘われることは一度もありませんでした。

そんなある日、初めて彼が「うちで遊ぼん」と誘ってきたので、「行こう」ということになり、彼の家で遊ぶことになりました。彼の家まであと少しというところで、突然、窓ガラスが割れる凄まじい音とともにガラスが散乱しました。その光景を目の当たりにし、驚きと同時に何が起きたのか状況を理解できないまま立ちすくんでいると、一人の男性が狂ったように暴れながら出てきました。恐怖で固まっている私の手を取り、彼は「行こう」と言っていて、家とは反対の方向に歩き出しました。私は何がなんだか分からないまま、彼に言われるがまま彼の後ろをついて歩き、公園に着いたところでようやく立ち止まりました。そして、バツが悪そうに彼が口を開きました。「最悪や…今日はおらんって言いよつたのに…」という一言を聞いて、彼の知り合いなんだということが理解できました。その後、その男性が彼の父親だと分かった時、そして薬物中毒で錯乱状態になって暴れたり、暴力を振るったりするということを聞かされた時、なんと言葉を書けたらいいのかわからず何も言葉が出てきませんでした。その彼がボソツと言った「お前のうちに生まれたらよかった。お前とこみたいな親やったらよかった」という一言と彼の表情は今でも脳裏から離れません。未熟だった私は、「こんな家に生まれなくてよかった。あんな親じゃなくてよかった」と心底思った記憶があります。

その後、彼は非行の道を進み、一緒に過ごす時間も徐々に減っていききました。中学卒業後は疎遠となり、今、どこで何をしているのか全く分かりません。あの時、どんな言葉を書ければよかったのか、何かしら力になれることはなかったのか…そんなことを今でもふと考えることがあります。

大人になり、保育に携わるようになった今、彼のような辛い思いをする子どもを一人でも減らしたいと思っています。貧困のスパイラルという言葉が耳にしますが、まさに生まれながらに負のスパイラルに巻き込まれている子どもがいます。彼のような状況は極端な事例で、重い事例かもしれませんが、酷い環境下で乳幼児期や学童期を過ごしている子どもがいるのも事実です。また、貧困や虐待だけではなく違った問題を抱えている子どももや家庭があるということも理解しています。ただ、私の保育の原点は、彼のような子どもであり、生きづらさを感じている子どもです。

生まれるところを選べないなら、そこから抜け出す力をつけていくしかありません。もちろん、保育園だけでは限界があり、簡単に解決できるような問題ではないということは分かっていますが、乳幼児期の私たちの関わりや保育内容、保育環境によって、そのような子ども達に少しでも抜け出す力、生き抜く力をつけさせてあげられるのなら、その可能性を信じてできる限りのことを考え、実行していくしかないと思っています。それが私の原動力であることは間違いありません。

## 編集後記

連日厳しい暑さが続いています。私が小学生の頃、毎年この季節には、兄と一緒に自宅から水着のまま歩いて海へ行ったものです。浜辺で石を集めたり貝をとったりした経験や、磯の潮だまりでカニや魚を捕まえた経験は今でもほつきりと心に残っています。岩にくっついた力キを割って食べていた時期もありました。今考えるとなんと危険な行為でしょう。しかし、あの頃の私たちは、魚を捕まえるためにどの順番で石をはぐつた方がいいのか、どんな餌を好むのかということを考え、子どもなりに対応力を身につけていたような気がします。また、海で様々な知識を得たことや、重たい岩を自分の力で動かしたことで、自信をつけ、自己肯定感を高く育てたのもかもしれません。本紙をお読みの皆様も、事例は違えども、幼少期にそのような経験を積んでくれたのではないのでしょうか。子どもの成長にかかわる仕事に就いたからこそ、自分がどのような経験から何を学んできたのかを振り返る機会を与えてもらっているような気がします。

機関紙編集委員 有松  
(原中央保育園)



～感想やご意見はこちらにお送りください～  
【保育協会メールアドレス】 [kyoukai@hoiku.or.jp](mailto:kyoukai@hoiku.or.jp)